

毎年恒例、短期集中講座のバードウォッチング。今年もバードリサーチのモリヤさんとヌカさんの案内のもと、葛西臨海公園を訪れた。何度も言うように、私は鳥については初心者だ。初心者だからこそ思うことがある。鳥って…**変な名前が多すぎないか？！**

とくにそう思ったのは、タツキが（こないだ卒業したはずだが、ちゃっかりこの講座に参加

していた）、「先生、『オオジュリン』がいましたよ！」と教えてくれた時だ。え？今なんて言った？！『オオジュリン』って何その変な名前？！

ということで、今回は鳥の名前に注目してみることにした。ここで紹介しているのはほんの一部だが、鳥に限らず**生き物の名前がどう由来で**しているのかを調べると、新たな見方ができて面白いかもしれない。



**モズ (百舌)** 他の鳥の鳴き声得意なことから百舌という字をあてたそうだ。



**カンムリカイツブリ (冠鳩)** 水を掻いて潜る「掻きつ潜り（かきつむぐり）」から転じたとか。漢字の「鳩」は水に入る鳥を意味するそう。



**チュウヒ (宙飛)** タカの仲間。かなり遠くを飛んでいたのに、モリヤさんたちには種類が分かららしい…すごい。日本野鳥の会によると、2020年時点での国内推定繁殖つがい数はわずか135つがい。絶滅が危ぶまれている。



**花を食べるヒヨドリ** ヒーヨヒーヨという鳴き声から名前がついたそう。東京では1970年頃までは冬鳥だったらしいが今では一年中見られる。鳥って花食べるの？！と結構驚いたのだが、調べるとやはりヒヨドリが特殊らしい。普通鳥類は葉や花卉は食べない。



**ハクセキレイ (普通の個体)** 「セキレイ (鶺鴒)」は背筋がピンと伸びて姿勢が美しい鳥という意味らしい。その話を聞いた時は「背綺麗」って書くのかと思ったけど、そんな安易じゃなかった。



**アカゲラ** 中型のキツツキの仲間。こんな写真しか撮れなかったが、鮮やかな赤色がおしゃれた。キツツキの仲間は〇〇ゲラと呼ばれる。木造の寺をよくついていたため、テラツツキ→ケラツツキと転じて、「ケラ」だけ残った。それじゃあアカゲラは「赤い寺」じゃないか！とつっこみたくなる。漢字では「啄木鳥」と書いてキツツキと読む。これは木を啄（ついで）む鳥という意味からだそうだ。



**ハクセキレイ白化個体** 白いタイプは結構珍しいようで、葛西臨海公園の名物らしい。



**オオジュリン (大寿林)** 名前の由来が気になって調べたら、なんとチュリーンという鳴き声からついたらしい（鳴き声由来という意味ではツクツクボウシみたいなものか）。鳥の名前って変なのが多くて面白い。細い葦の枝に縦に止まって虫を食べる。関東では冬鳥。

今回確認できた50種の鳥

カモ目 オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、スズガモ、ウミアイサ、ホシハジロ、キンクロハジロ カイツブリ目 カイツブリ、カンムリカイツブリ ハト目 ドバト、キジバト カツオドリ目 カワウベリカン目 アオサギ、ダイサギ、コサギ ツル目 オオバン チドリ目 セグロカモメ、ユリカモメ、ウミネコ、コチドリ、イソシギ タカ目 トビ、ノスリ、ツミ、チュウヒ キツツキ目 コゲラ、アカゲラ スズメ目 モズ、ハシボソガラス、ハシトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、アオジ、オオジュリン、ヤマガラ、シメ、カワラヒワ、ツバメ、イワツバメ